

## 5/13 中国・同済大学と交流協定を更新しました

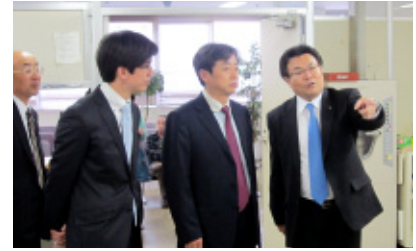
平成26年5月13日(火)、中国・同済大学口腔医学院より王佐林院長と張磊副教授が来学し、本学歯学部との交流協定更新の調印を行いました。



本学到着後は齋藤歯学部長と共に新川学長、黒澤副学長を表敬訪問し、来学の挨拶とこれまでの両大学の交流事業について報告をしました。その後、齋藤歯学部長、越野教務部長、大野学事相談役と今後の両学部間の交流について意見交換が行われ、教育、研究の両面からより一層、交流活動を進展させていくことを確認しました。

調印式では、本学関係者の見守る中、齋藤歯学部長、王院長により協定書への署名が行われ、協定更新が完了しました。

本学歯学部と同済大学口腔医学院は平成5年より協定を結んでおり、本学の海外提携大学としては長い交流の歴史を持つ大学の一つです。



これまでも数々の交流実績があり、平成26年3月には本学歯学部の学生が同済大学での短期臨床実習に参加しています。今回の協定更新が今後のさらなる交流発展に繋がることを期待されます。

## 5/22 インド大使館科学技術部による本学視察が行われました

平成26年5月22日(木)、インド大使館科学技術部よりチャダラム・シヴァジ参事官が来学し、本学研究施設の視察を行いました。

本学到着後、学長室を訪問し、学長に来学の挨拶および視察受け入れのお礼を述べられました。

シヴァジ氏はインド国内の科学技術振興のためにインド政府の科学技術部に所属し日本各地の研究施設の視察を行っており、自身も地球物理学者として研究を続けています。

今回の来道では、本学のほか森町の地熱発電所、豊羽鉱山、北海道大学農学研究科などの訪問が予定されていました。

本学では、主に薬学部、歯学部の研究機器、

動物実験センター、アイソトープ研究センター、個体差健康科学研究所やその他関連施設の視察を行い、各学部の先生による説明に興味深く聞き入り、質問を繰り返していました。

その後は、札幌あいのりキャンパスを経由して市内に向かい、札幌サテライトキャンパスを見学し、予定していた視察を終えました。

今回の訪問は、昨今高まるインドと日本の交流発展の一環として、

両国の科学技術交流にむけた取り組みの一面もあつたようです。北海道訪問、そして本学での視察が、今後の日本とインドの科学技術交流発展の一助になることを期待したいと思います。



学長室にて新川学長とシヴァジ氏



薬学部岡崎教授によるハイテクサーチャラボの紹介

### EDITOR'S NOTE

コンピュータの発達により、「情報」の管理が大変に難しい社会になっています。欲しい「情報」の検索は、極めて簡単になりました。たとえばパソコンの調子が悪く、原因と解決策がわからないとき、web上で検索欄に症状や状況などを示すキーワードを入力すると、沢山の方々が、同じ経験をした時の解決策を書き込んだブログなどがヒットします。そしてその方法を試してみると、最終的に解決できることを経験します。結果からは、その「情報」は有益な「正しい」情報であると言えます。ところが同じ「情報」の中にも、「間違った」ものや「悪意による偽りの」情報が紛れ込んでいることも多くあります。

そこでまず、「情報検索」の後には、「情報の質」の判断とその「情報」を利用するかどうかの判断が今まで以上に大切になってきたと考えます。さらに言えば「情報管理」も不可欠なスキル(たとえば電子化された診療情報の厳密な管理と個人情報保護など)です。今後は、大学だけでなく、すべての教育課程において、情報処理教育が最重要科目になってくると思っています。この広報誌の「情報」においても、正しく有益で、よく「管理」されたものであることを願っています。

(E.N記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.159

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 中山 英二 鎌口 有秀  
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 藤原 宏次 田村 至  
大塚 裕之 木村 恵 杉原 佳奈 杉谷 昌彦  
宮川 雄一 國見 明美 塚田 将人

発行日 ● 2014年10月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課  
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757  
☎(0133)22-2113  
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。  
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念  
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。